

実施の様子 2

<2日目> 8月18日(土)

●オリエンテーション

西岡加名恵教授の司会のもと、オープニング&自己紹介タイムが始まりました。新たな参加者を交え、前日同様に自己紹介を行いました。



●シンポジウム：「カリキュラム・マネジメントをどう効果的に進めるか」

司会：西岡 加名恵 教授、石井 英真 准教授

西岡教授・石井准教授の進行のもと、「カリキュラム・マネジメントをどう効果的に進めるか」という観点から、3名の先生方にご報告いただきました。赤沢早人教授(奈良教育大学)からは「授業改善のための／としてのカリキュラム・マネジメント」、盛永俊弘特任教授(教育学研究科)からは「学校課題を解決するマネジメント」、そして田中容子特任教授(教育学研究科)からは「すべての生徒に考える力を——生徒の姿から学ぶカリキュラムづくり」と題して、それぞれの専門分野の立場からお話いただきました。フロアからも沢山の質問や意見が寄せられ、議論を深めました。

①「授業改善のための／としてのカリキュラム・マネジメント」

担当：奈良教育大学 赤沢 早人 教授



②「学校課題を解決するマネジメント」

担当：盛永 俊弘 特任教授



③「すべての生徒に考える力を——生徒の姿から学ぶカリキュラムづくり」

担当：田中 容子 特任教授



——質疑応答の様子——



<参加者の声>

- ・多くの事例をまじえての話でしたのでとてもわかりやすかった。もっと聞きたかった。
- ・素晴らしい実践に元気と刺激をもらった。
- ・前日の学びが整理できて自分でも実践してみたいと思った。
- ・今まで疑問に思っていたことが聞けて良かった。また、先生方が同じ疑問を持たれていることに安心した。
- ・「誰のため」「何のため」からスタートする、当たり前なのにできていなかったことに気づいた。
- ・教職員の「カリキュラム・マネジメント」「パフォーマンス課題」「教育改革」の意識・目的・情報・データ等の共通化・共有化を図ることの大切さを再認した。自校で取り組みたい。
- ・カリキュラム・マネジメントに対する恐怖心や不安感が和らいだ。

●シンポジウム&教科等別分科会：

「各教科等における『見方・考え方』をどう育成するか——パフォーマンス評価の活用」

担当：西岡 加名恵 教授（教育学研究科、趣旨説明）、
 八田 幸恵 准教授（大阪教育大学、国語科）、
 鋒山 泰弘 教授（追手門学院大学、社会科）、
 次橋 秀樹 氏（教育学研究科大学院生、社会科）
 石井 英真 准教授（教育学研究科、算数・数学科）、
 大貫 守 講師（愛知県立大学、理科）、
 赤沢 真世 准教授（大阪成蹊大学、英語科）
 北原 琢也 特任教授（教育学研究科、技術・家庭科/教員研修ほか）、

教科ごとのグループに分かれ、「各教科等における『見方・考え方』をどう育成するか——パフォーマンス評価の活用」の議論を深めました。



<参加者の声>

- ・ グループ協議をして、他県・他校種の特徴を学びとることができた。
- ・ 「見方・考え方」と「本質的な問い」の理解が深まった。とてもわかり易かった。
- ・ 小中高と校種を超えて話ができて、改めて“発達段階に応じた”という内容のある話ができて楽しかった。
- ・ 同じ教科の先生方と考えることができ、大きな収穫となった。
- ・ 教員数の少ない教科を担当しているので、教科で考える機会ありがたい。
- ・ 小中高の流れを知りたいと思いながら今までできなかった。今回の研修に参加してとても意味のある深い時間をすごせた。
- ・ 小中高の教科の系統、たて・よこの軸の大切さを実感した。こういう機会は必要で県でもできたら良いと思った。
- ・ 抱えている課題に共感し、前向きに課題解決に向けて考えることができた。エネルギーをもらった。
- ・ 他校の先生、他教科の先生と話ができ、貴重な体験だった。研修の最初におっしゃった「楽しい」「元気がもらえる」の意味がよく分かった。
- ・ 受講して、教科の知の構造の作り方をイメージすることができた。移転可能な概念をまとめる際のプロセスを学ぶことが出来たのでやってみたい。
- ・ グループで検討したことは、対話的学びを実体験できて有意義だった。

皆さん同じ悩みを抱えていることがわかり、共感し、小中高の枠を越えてディスカッションができて有意義だった、楽しかった、元気をもらった、実践してみたい、という声が多数寄せられました。

●クロージング

教科のグループごとに総括をしました。最後に研修評価アンケートにご記入いただき、(2日間とも参加された方には)記念に修了証書をお渡しして終了となりました。

皆様、大変お疲れ様でした！

<E.FORUM 研修プログラムリニューアルに関する要望>

- ・分科会を残してほしい。
- ・新指で変わった授業、子どもの学び、活動、テストの交流をしたい。
- ・「授業作り」「カリキュラム設計」を残してほしい。また、この二つ両方を受講できるプログラムだとうれしい。
- ・評価（ルーブリック、課題研究における評価）について、具体的な先進事例を聞きたい。
- ・パフォーマンス評価、授業づくりにかかわる内容は残してほしい。
- ・パフォーマンス課題の作成法の習得者向けに、ルーブリック作成に特化したプログラムがあると良い。
- ・グループ協議の時間を増やしてほしい。
- ・教科別分科会は他にない研修会なので残してほしい。
- ・引き続き、参加者主体の時間を確保してほしい。
- ・交流や協働性があり、実践と関連している（それを参加者が実感できる）という点は残してほしい。
- ・教育に直接関わらないような、でもどこかで関わっているという方のお話を残してほしい。
- ・1日目の講演、2日目のシンポジウムを残してほしい。
- ・今回の講演「ワーキングメモリを鍛えることができるのか？」のような、パフォーマンス課題とは一見離れたような学術的視点を残してほしい。
- ・シンポジウムを残す。
- ・生徒にポートフォリオを作成させる実践例等を教えていただきたい。
- ・テーマに沿って実践を持ち寄り、情報交換できる時間があっても良い。
- ・もっと実践報告を聞きたい。
- ・Web上で見られるというのうれしい。
- ・無くして欲しいプログラムは無い。
- ・参加者が増え、このプログラムの素晴らしさが広がっていると思うので変えてほしくない。
- ・「他教科を学ぶ」「他教科に学ぶ」ような、教科を横断することについて取り上げてもらえたらと思う。
- ・教育を考える上で必要なこと、新しい情報等を学びたい。
- ・以前のように2日半の開催で、夏にも実践交流会があっても良い。
- ・校内研究を充実させ、学ぶ教員を育てることが教育を良くするのではと考えているので、校内研究（現職研修）に関する内容。
- ・2日間の参加が難しい方もいると思うので、隔年で教科別分科会を1日目に行うなどしていただけたらうれしい。
- ・翌年に印刷するこの研修の報告書冊子を参加者に送ってほしい。